

紹介された地域福祉活動における取組事例

会議の中で紹介された各団体の取組事例は、他の活動者にとってもヒントとなる素晴らしい事例です。各事例の共通点は、「自分たちだけで全てをやろうとしない(ネットワーク化)」ことと、「楽しさを通じて人を巻き込む(サードプレイス化)」という点にあります。

1. 「多世代・地域資源」の循環と連携

- ふれあいセンターでの子ども・高齢者交流(社協)
 - 内容: ユースプレイス整備を見据え、高齢者の居場所である「ふれあいセンター」の3階へ小学生低学年を招待。
 - ポイント: 盆踊りや演奏会において、企画段階から高齢者が主体的に関わり、子どもたちと共に運営。高齢者にとって「子どもを迎え入れる」という新しい役割が生まれ、多世代の接点を創出しました。
- 「認知症サポーター養成講座」の地域連携(民生委員児童委員協議会)
 - 内容: 小学校4年生を対象に、「まちの保健室」、保健師、担任教諭、民生委員が連携して開催。
 - ポイント: 「寸劇」を用いて認知症を面白く、分かりやすく伝える手法をとりました。CS(コミュニティスクール)の一環として、学校・専門職・地域住民が「タッグ」を組むことで、子どもたちの深い理解を促しました。
- 「なんとかなるなる なばりです」プロジェクト
 - 内容: ロゴ制作メンバーを中心としたワークショップの継続開催や、英心高校の文化祭での「なんとかなるなるゲーム(カードゲーム)」体験会の実施。
 - ポイント: 若い世代が「楽しさ」を入り口に巻き込まれることで、地域活動の敷居を下げています。世代を超えた交流の輪が広がり、若者が地域活動の主役となる土壌を育んでいます。

2. 「企業・団体」の強みを活かした協働モデル

- 「ちいかけん」による企業との活動
 - 内容: スターバックスコーヒーと連携したラジオ体操や、地元企業の不要品(ハトムエ工場や菊水テープの紙管、桔梗が丘のお米屋の米袋など)を活用したワークショップ。
 - ポイント: 「企業側にもメリットがある(サードプレイス創出やCSR)」ことを意識し、金銭的支援だけでなく、物や知恵、時には人材を出し合うネットワークを構築。自分たちが全てを抱え込まず、面白い人や企業を巻き込む「コーディネート力」が成功の鍵です。
- 病院の空き車両を活用した移動支援(四日市市の事例)

- **内容:** 病院の送迎用車両を、運行していない時間帯に「地域の買い物・移動支援」として開放。
- **ポイント:** 収益性だけを追求せず、地域貢献として車両をシェアする仕組み。既存の社会資源(病院の車両)の有効活用により、住民の足を確保するモデルケースです。

3. 「活動の見える化」と「参加のハードル下げ」

- **公募型・地域介護予防事業(市)**
 - **内容:** 行政が単独で行うのではなく、公募により 22 の事業を選定し、多様な主体に介護予防活動を委託・連携。
 - **ポイント:** 多様な主体が動くことで、行政の既存サービスには馴染めなかった層へのアプローチや、新たな繋がりが生まれています。
- **保護司会の「社会を明るくする運動」(名張保護司会)**
 - **内容:** 「伊藤和子杯(卓球大会)」や「中学生作文コンクール」、キャラクター「更生ペンギン」の活用、BBS(青年ボランティア)によるライブ活動。
 - **ポイント:** 従来、閉鎖的になりがちな組織イメージを脱却。啓発ビデオのロビー放映など、広く市民に周知する努力を重ね、再犯防止には「地域の見守り」が不可欠であるという認識を広めています。
- **「ささえあい活動」と「配食ボランティア」の合同交流会(社協)**
 - **内容:** 個別に開催していた研修会を統合し、約 60 名が参加。運転適性検査なども実施。
 - **ポイント:** 訪問活動という共通課題を持つ者同士を繋ぐことで、「自分たちの課題は特殊ではない」という気づきと、「他の地域ではどうしているか」という知恵の交換を促進しました。